

令和3年度農福連携取組実績及び令和4年度の農福連携施策の共有について



高知県子ども・福祉政策部 地域福祉政策課、障害保健支援課  
農業振興部 環境農業推進課

# 取組推進のための体制

～農福連携支援会議(プラットフォーム)について～

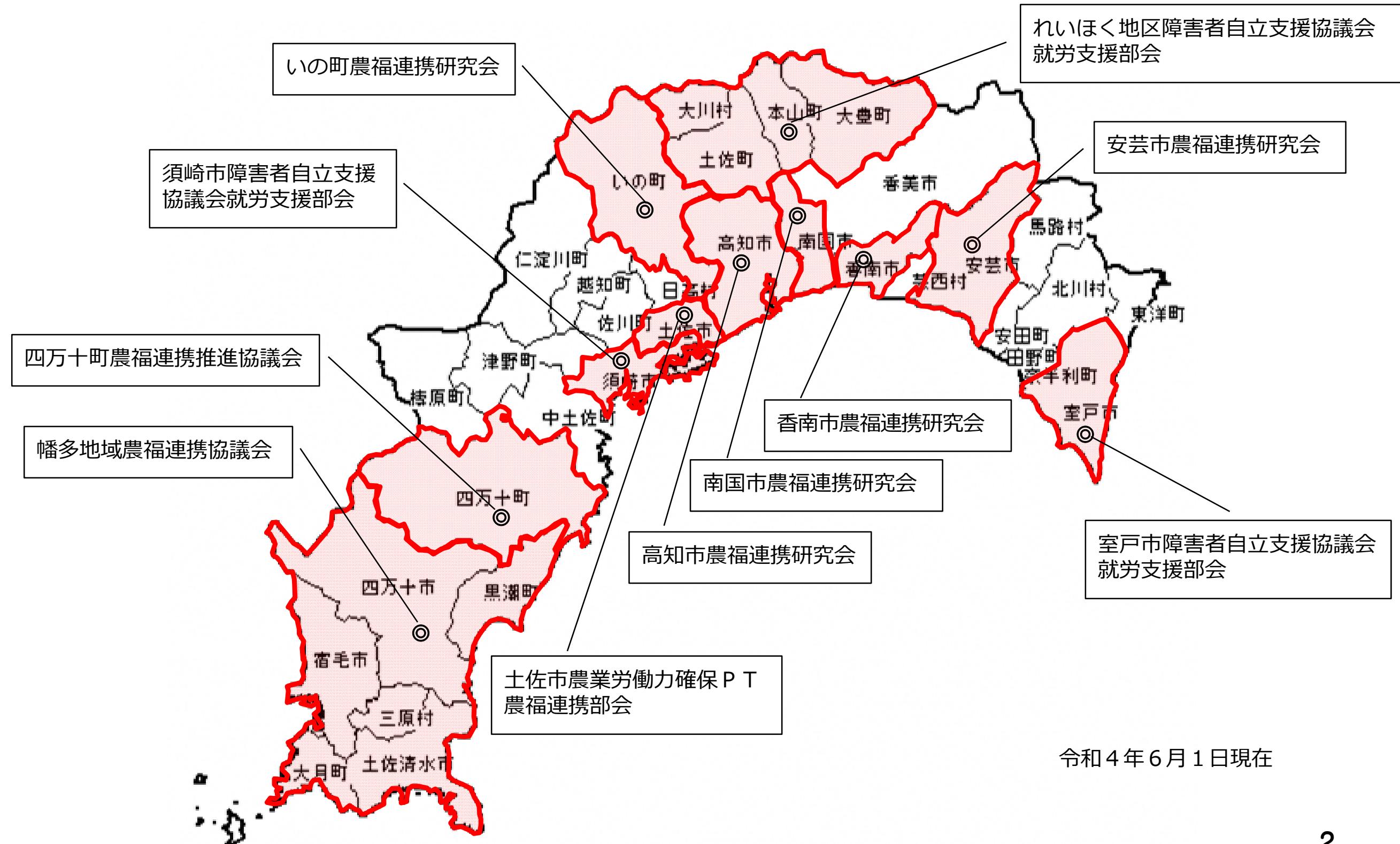
## ■設置状況

県内11地域(19市町村)【令和4年6月1日現在】  
(高知市、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、  
香南市、いの町、四万十町、幡多地域、嶺北地域)

## ■役割

地域地域で農業・福祉・行政機関等が連携し、農福連携に係る意識醸成からマッチング支援、定着支援まで切れ目のない支援を行う。

# 農福連携支援会議(プラットフォーム)設置状況



# 取組推進のための体制②

～農福連携支援調整会議について～

## ■設置目的

高知県全体の農福連携の推進を図るため農福連携支援調整会議を設置。

## ■役割

農福連携の意義を伝えて機運を醸成することや、各支援会議における農福連携の取組の情報共有、より効果的な連携推進施策の検討等を行うことで、本県の農福連携を総合的に推進。

## ■開催実績

令和3年11月9日(火)第1回会議を開催。

# これまでの農福連携の実績(速報値)

(単位:人)

農振センター ・普及所単位		農家等								JA集出荷場								その他				合計			
		一般就労(※1)				施設外就労(※2)				一般就労(※1)				施設外就労(※2)											
		H31.1	R2.3	R3.3	R4.3	H31.1	R2.3	R3.3	R4.3	H31.1	R2.3	R3.3	R4.3	H31.1	R2.3	R3.3	R4.3	H31.1	R2.3	R3.3	R4.3	H31.1	R2.3	R3.3	R4.3
1	安芸	23	48	34	45	0	0	2	9	0	0	0	9	0	2	3	23	7	16	41	48	30	66	80	134
2	中央東	1	5	11	20	5	15	18	18	0	0	0	5	0	0	3	3	6	5	6	0	12	25	38	46
3	嶺北	0	0	0	2	15	23	31	24	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	15	23	31	27
4	中央西	1	3	2	3	0	0	0	13	0	0	0	2	10	10	11	6	0	1	1	0	11	14	14	24
5	高知	3	7	12	7	41	63	95	132	5	6	6	4	0	0	4	17	0	0	0	0	49	76	117	160
6	高吾	0	3	4	3	30	44	48	75	0	1	1	2	3	2	5	6	0	0	0	0	33	50	58	86
7	須崎	1	1	1	1	5	5	33	14	0	0	0	4	36	36	39	6	0	0	1	0	42	42	74	25
8	高南	0	0	1	1	32	36	29	39	0	0	0	0	5	5	5	0	0	0	0	0	37	41	35	40
9	幡多	0	0	0	3	34	63	47	20	0	0	0	0	0	0	8	23	0	0	0	0	34	63	55	46
合計		29	67	65	85	162	249	303	344	5	7	7	27	54	55	78	84	13	22	49	48	263	400	502	588

※1:障害のある方等が農家等に就職して、労働契約を結んで働く。

※2:障害のある方と就労継続支援事業所の職業指導員がユニットを組み、請け負った農作業を現地で行う。

- ・農業分野で就労する障害者等は増加しているが、伸び率は鈍化している。
- ・一般就労及び施設外就労ともに増加している。
- ・農業分野で就労する障害者等の数は、高知、安芸、高吾の順で多い。

**※令和3年度目標(75人/年以上)は達成しているが、令和2年度(102人/年)を下回っていることから、さらなる取組の強化が必要**

# 令和3年度の各種施策の実績①

## 意識醸成・啓発

### ●農福連携サミット【R3年:4回】(環境農業推進課)

令和3年7月9日	安芸市農福連携サミット	参加者:60人
令和3年11月26日	第2回幡多地域農福連携協議会	参加者:30人
令和4年1月13日	農福連携研修会inなんこく	参加者:69人
令和4年3月3日	四万十町農福連携フォーラム	参加者:50人

### ●農福連携マルシェ【R3年:2回(1回2日間)】(障害保健支援課)

令和4年3月19、20日	四万十市会場 (フジグラン四万十)	来場者:約1,200人
令和4年3月26、27日	高知市会場 (とさのさとアグリコレット)	来場者:約3,000人

※来場者数は、10時、11時、12時、13時、14時からの10分間、メイン出入り口からの来場者数をカウントし、5時間分を推計したもの (カウント人数 \* 6 \* 5)

### ●農作業体験会【R3年:9回】(環境農業推進課)

作業内容:田植え、残渣処理、出荷調製など 参加者:61人  
(高知市、須崎市、四万十町など)

# 令和3年度の各種施策の実績②

## 職業準備・マッチング支援

### ◀施設外就労▶

- 農福連携促進コーディネーター(障害保健支援課)  
マッチング: 1件、訪問事業所等数: 150件

### ◀一般就労▶

- 就労体験拠点設置事業(障害保健支援課)  
就労体験: 37件
- 就労体験拠点設置事業(地域福祉政策課)  
就労体験: 0件
- 実践能力習得訓練(障害保健支援課)  
訓練生(農福関係): 5人  
(うち修了: 3人、雇用: 3人)
- 試行就労受入体験(環境農業推進課)  
対象者: 2人
- ひきこもり自立支援体制構築事業(地域福祉政策課)  
就労体験: 6件、就労訓練: 0件  
(うち雇用: 2件)
- 生活困窮者就労準備支援事業(地域福祉政策課)  
就労体験: 0件

## 定着支援

- 農福連携就労定着サポーター(環境農業推進課)  
サポート対象: 7件  
サポート回数: 22回



※各事業の実績は農福関係の数値

# 令和4年度の各種施策①

## 意識醸成・啓発

- **農福連携サミット【R4年:5回】**(環境農業推進課)

農業関係者及び福祉関係者をはじめとする多くの県民に農福連携の取組を理解してもらうとともに、関心を深めてもらうため、有識者による講演や実際に農福連携に取り組む農家等による事例発表等を実施する。

- **農福連携マルシェ【R3年:2回⇒R4年:3回】**(障害保健支援課)

農福連携について県民への普及啓発を図り、障害者等の農業分野への就労促進を図るとともに商品の販路拡大や障害者の工賃向上につなげる。

- **農作業体験会【R4年:15回】**(環境農業推進課)

実際の農作業を障害者等が体験することで、作業内容の理解につなげる。

- **農福連携に係る相談窓口の周知**(障害保健支援課)

各支援機関を掲載したパンフレットを作成して周知することで、速やかな相談支援につなげる。

# 令和4年度の各種施策②

## 職業準備・マッチング支援

### <<施設外就労>>

- **拡 農福連携促進コーディネーター【R3年:1人⇒R4年:3人】**(障害保健支援課)  
農家等と就労継続支援事業所による施設外就労のマッチング等を支援する。

### <<一般就労>>

- **就労体験拠点設置事業**(障害保健支援課)  
就労体験を通じて、障害者に「働ける自信」を持っていただくことで、一般就労を目指す。
- **拡 就労体験拠点設置事業【R3年:1カ所⇒R4年:3カ所】**(地域福祉政策課)  
就労体験を通じて、ひきこもりの人等に「働ける自信」を持っていただくことで、一般就労を目指す。
- **実践能力習得訓練**(障害保健支援課)  
求職障害者を対象とした民間企業等での実践的な職業訓練を行う。
- **試行就労受入体験【R4年:12件】**(環境農業推進課)  
新たに障害者等の受入に理解を示した農家等が、試行的に障害者等を受け入れる場合にかかる経費を助成する。
- **生活困窮者就労準備支援事業**(地域福祉政策課)  
就労に向けた準備が整っていない生活困窮者に対して、就労に向けた準備として基礎能力の形成からの支援を実施する。

# 令和4年度の各種施策③

## 定着支援

**拡** 農福連携就労定着サポーター(環境農業推進課)

### 【全取組農家等への訪問支援】

農業分野で就労した障害者等や障害者等を雇用した農家等への指導・助言を通じて、障害者等の就労定着を支援する。

## 人材育成

**新** 農業版ジョブコーチ育成研修(環境農業推進課)

農業・福祉双方の専門知識を有し、啓発からマッチング、定着までを支援できる人材を育成する。

6月:カリキュラムや講師選定

9~11月:研修実施

受講者:20名程度(予定)※普及所の農福担当やJAの無料職業紹介所の担当などを想定

# 農福連携等推進ビジョン(一部抜粋)

農福連携を、農業分野における障害者の活躍促進の取組にとどまらず、ユニバーサルな取組として、農業だけでなく様々な産業に分野を広げるとともに、高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者等の就労・社会参画支援、犯罪・非行をした者の立ち直り支援等にも対象を広げ、捉え直すことも重要である。

こうした農福連携等（農福連携を広く捉えた取組）は、平成27年に国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）の「すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長及び働きがいのある人間らしい仕事の推進」にも通じる取組でもあり、障害者、高齢者等のすべての人々が地域で暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる地域共生社会の実現に資する取組の一つでもある。

【目標値】・農福連携の新規従事者数 (R1) 25人 → (R5) 75人/年以上

### 1 現状

目的：障害者や生きづらさを抱える方が農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを持って社会参画を実現。農業分野の新たな働き手の確保など相乗効果。

#### ◆取組推進のための体制

- 地域地域で農業・福祉・行政機関等が連携し、農福連携に係る意識醸成からマッチング支援、定着支援まで切れ目のない支援を行うため、各地域に農福連携支援会議を11地域19市町村(R4年2月現在)に設置するとともに、県域の農福連携の推進を図るため、農福連携支援調整会議をR3年11月に設置。

#### ◆各種マッチング支援

- 農福連携促進コーディネーター
- 就労体験拠点設置事業
- 実践能力習得訓練
- 試行就労受入体験
- ひきこもり自立支援体制構築事業
- 生活困窮者就労準備支援事業

#### ◆農福連携就労定着サポーターによる定着支援

《農福連携の実績》 (単位：人)

	R2.3		R3.3	
障害者	350	87.5%	462	92.0%
直接雇用	35	8.7%	34	6.8%
施設外就労等	315	78.8%	428	85.2%
生きづらさを抱える方等	50	12.5%	40	8.0%
合計	400	100.0%	502	100.0%

### 2 課題

#### 1 障害者と農業とのマッチング

【障害者等】農福連携に関心がある場合、情報をどこに求めたらいいのかわからない。  
 【農家等】農福連携に興味がある場合、情報をどこに求めたらいいのかわからない。

① ⇒ 情報発信の強化が必要

【農家等】農福連携に取り組みたい場合、どこに相談したらいいのかわからない。  
 ② ⇒ 情報の一元化とニーズをつなぐ"コーディネーター機能"の強化が必要

【障害者等】農業現場で作業することに対する不安

【農家等】農作業に従事する障害者等へのフォロー（ケア）が不安

③ ⇒ 就労定着を支援する"サポーター機能"の強化が必要

④ ⇒ 啓発から定着まで支援できる人材の育成が必要

#### 2 生きづらさを抱える方と農業とのマッチング

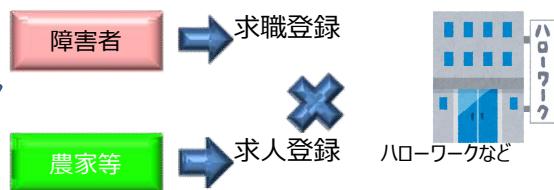
上記①②③④に加えて、課題が複合的で時間を要するケースが多い  
⇒ 市町村の「包括的な支援体制」の整備と一体的な支援が必要

### 3 令和4年度の取り組み

#### 1 障害者と農業とのマッチング

①農家等が障害者を直接雇用 ⇒ 農家等が障害者の特性等を十分に理解することが前提となる。

ステップアップ



- ハローワーク、障害者就業・生活支援センターの支援員との連携を一層強化
  - ・農福連携支援会議を通じて、最新情報を共有
  - ・障害者の特性に合わせて、タイムリーに情報提供
  - ・雇用後のフォローアップも連携して対応
- 【拡】農福連携就労定着サポーターの機能強化
- 【新】農福双方の専門知識を有し、啓発から定着まで支援できる人材の育成

②福祉事業所の施設外就労(農家等と委託契約) ⇒ 支援員が農作業に同行するため農業者の負担が少ない。

ステップアップ

- 農業分野での施設外就労を実施する事業所を増やす (R3.4月 31事業所 ⇒ R5 50事業所)
- 施設外就労の予定がない事業所の支援員に対して、利用者への農福連携の情報提供と希望者へのマッチング支援を徹底
- 「高知県共同受注窓口」への情報集約とマッチング支援機能を強化

- 【拡】農福連携促進コーディネーターの増員 (R3:1名 ⇒ R4:2名)
  - ・施設外就労に取り組む事業所を増やす
  - ・取り組まない事業所に対して、協力依頼

- 【新】共同受注窓口の強化
  - ・農家等に「共同受注窓口」を周知
  - ・農業側の情報を窓口を集約し、積極的に農作業をあっせん

③これから農福連携を検討する障害者

- 多くの方に広く知ってもらうため、情報発信を強化

- 【拡】ホームページの充実や紹介パンフレットの作成
- 【拡】農福連携サミット、農福マルシェ、農作業体験会

#### 2 生きづらさを抱える方と農業とのマッチング

【一般就労】

- 農福連携支援会議及び支援機関による就労支援の充実を図る。
  - 農福連携支援会議を通じて、最新情報を共有
  - 農福連携支援会議の未設置地域については、各支援機関の連携を強化
- 【拡】農福連携就労定着サポーターの機能強化【再掲】
- 【新】農福双方の専門知識を有し、啓発から定着まで支援できる人材の育成【再掲】

【農作業が体験できる居場所づくり】

- 直ちに一般就労が困難な生きづらさを抱える方に居場所を提供することで、社会参加を支援する。

【拡】支援者同士のネットワークづくり

- ・生きづらさを抱える方を支援する機関が各地域の農福連携支援会議へ参画し、生きづらさを抱える方を農業分野の居場所につなぐ体制を構築
- ・農福連携支援会議の未設置地域等については、地域のニーズに応じて農福連携支援会議の設置を支援。あわせて、市町村の包括的支援体制での連携が可能となるよう、支援の調整の場への農業関係団体の参画を促進

【拡】社会参加の支援

- ・各地域の農福連携支援会議等で生きづらさを抱える方の居場所づくりに協力を得られる農家等を把握し、必要に応じて居場所の提供を依頼
- ・生きづらさを抱える方が居場所を利用する際には、自立相談支援機関等が付き添うなど、社会参加に向けた伴走支援を実施

【拡】居場所の拡充

- ・各地域の農福連携支援会議等への参画機関等による協力農家等の開拓
- ・農福連携サミット等の意識醸成・啓発の場における農家等への呼びかけ
- ・生きづらさを抱える方を対象とした就労体験拠点の拡充 (R3:1カ所 ⇒ R4:3カ所)